



PDA 岩手県公立高校 即興型英語ディベート交流大会 2020

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020 年 11 月 3 日（土）9:00-13:00

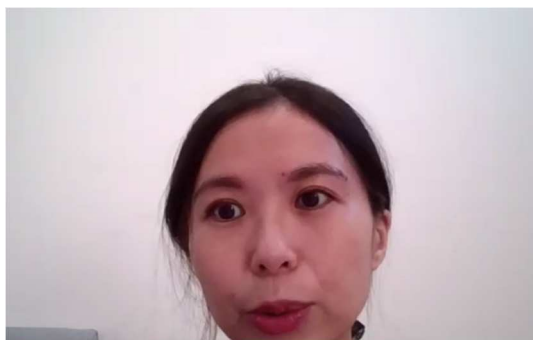
会場：岩手県立盛岡第一高等学校（Zoom を用いたオンライン開催）

参加者：盛岡第一高校(生徒 9 名、教員 2 名)、盛岡第三高校(生徒 8 名、教員 1 名)、
盛岡北高校(生徒 5 名、教員 1 名)、福岡高校(生徒 8 名、教員 1 名)、
一関第一高校(生徒 8 名、教員 1 名)

ジャッジ：PDA スタッフ、PDA 認定教育ジャッジ、相模原高校、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

開会式では、PDA 代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、参加校の紹介、昨年度大会の様子の共有、ルールの復習などが行われました。ルールの復習では、全員で POI(Point of Information)の練習を行いました。片手を頭に乘せ、もう片方の手を伸ばすという POI のポーズをしっかりと行うことができました。



PDA 代表理事中川による挨拶



全員で POI の練習

POI の練習を終えると、早速第 1 ラウンドの始まりです。第 1 ラウンドの論題は、「*Japan should legalize euthanasia.*（日本は、安楽死を合法化すべきである。）」でした。ALS（筋萎縮性側索硬化症）など具体的な病名を提示したり、“Please imagine,” と聴衆に呼びかけるようにスピーチをしたり、活発に POI をすることでお互いの疑問を解消したり、積極的に議論を深めようとする様子が見られました。

ディベートが終わると、お互いの健闘をたたえるためにエアー握手を交わしました。その後のジャッジのフィードバックでは、ひとりひとりに対して行われる個人コメントなどをメモを取りながら真剣に聞き入っていました。



堂々とスピーチしています



ディベート後のエアー握手

第1ラウンドが終わるとすぐ第2ラウンドの始まりです。第2ラウンドの論題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」でした。Government (肯定チーム) からは異性の目があると言いたいことを言えなかったり、身だしなみに気を使ったりするが男子校・女子校であれば自由に過ごせる、だからこそ勉強にも集中できるなどの論点が出ました。Opposition (否定チーム) からは、男女の様々な観点を取り入れられる、恋愛を楽しめるなどの論点が出ました。



スピーチの様子



P01 も活発に行われました

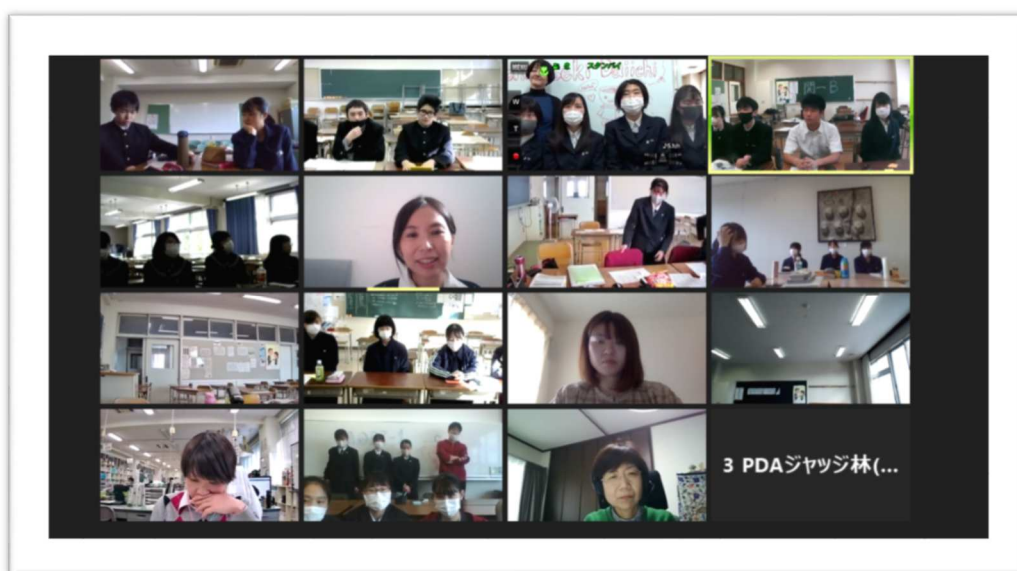
そしてジャッジを務めたスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビションディベーターに推薦した6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「*"Go To travel" campaign should be cancelled.* (Go To トラベルキャンペーンは中止されるべきだ。)」でした。感染が広がるリスク、経済的なダメージ、倒産してしまったり経営が苦しくなったりしている観光産業などの抱えている問題など様々な観点から議論が交わされました。

オーディエンスの生徒も勝敗を考えながらディベートを観戦し、ディベートが終わると挙手で Government が勝ったか Opposition が勝ったか投票が行われました。生徒ジャッジとメインジャッジの投票の結果、今回のエキシビションディベートは Opposition チームの勝ちとなりました。



ジェスチャーも交えながらスピーチ

閉会式では、表彰式が行われたのち、PDA 代表理事の中川より、大阪都構想を例として挙げながら、一般大衆にわかるように説明することの重要性についてコメントがあり、ディベートを競技として行っている人だけでなく、そうでない人に伝わる説明を心がけてくださいと、これからの活動について激励の言葉が送られました。



PDA 代表理事中川による激励の言葉



【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM ——さん (一関第一高校)
- LO ——さん (盛岡第一高校)
- MG ——さん (福岡高校)
- MO ——さん (一関第一高校)
- LOR ——さん (一関第一高校)
- PMR ——さん (福岡高校)



エキシビジョンディベータ

〈チーム賞〉

- 1位 一関第一高校 Bチーム
- 2位 一関第一高校 Aチーム
- 3位 福岡高校 Aチーム
- 4位 盛岡第一高校 Bチーム
- 5位 盛岡第一高校 Cチーム



1位 一関第一高校 Bチーム



2位 一関第一高校 Aチーム



3位 福岡高校 Aチーム

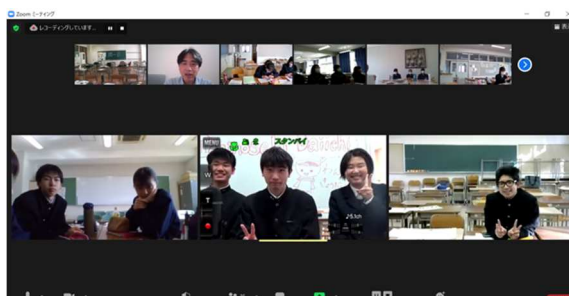
〈ベストディベーター賞〉

- ・ ——さん (一関第一高校)
- ・ ——さん (福岡高校)
- ・ ——さん (一関第一高校)
- ・ ——さん (一関第一高校)
- ・ ——さん (福岡高校)
- ・ ——さん (福岡高校)
- ・ ——さん (盛岡北高校)
- ・ ——さん (盛岡第三高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)



〈POI 賞〉

- ・ ——さん (一関第一高校)
- ・ ——さん (一関第一高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)
- ・ ——さん (一関第一高校)
- ・ ——さん (福岡高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)
- ・ ——さん (盛岡第一高校)



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ・初めてオンラインで他校のディベーターさんとディベートをしました。うまくコミュニケーションをとることが難しかったですが、とても楽しく、貴重な経験となりました。ありがとうございました。（一関第一高校）
- ・世の中のことを考えさせてくれることで意識をさせる。（福岡高校）
- ・今日は他の高校の方々のスピーチを聞いてすごく勉強になりました。もっと練習して早く慣れて話せるようにしたいです！（盛岡北高校）
- ・初めての即興型ディベートの出場だったが、自分の意見を伝えられて楽しかった。即興で対応する力は、どの場面においても大切なことだと思うから、さらに力をつけてみたいと感じた。（福岡高校）
- ・時間内に自分たちの論を考えるのがとても難しかったけど、協力してできて楽しかった。（盛岡第三高校）
- ・安楽死という論題は難しかったが、いつもよりも短い時間で考え、脳が活性化されて良かった。（盛岡第三高校）
- ・今回初めて **summary** を担当して、最初は緊張していたが、やるにつれて方法が分かってきりアドバイスなどをもらえたりして、今後につながる大会になったと思った。（盛岡第一高校）
- ・準備時間が足りなくてもどうにか話そうと努力できた。即興で話すのは楽しかった。（盛岡第三高校）
- ・試合に出るのは初めてでしたが、同じチームのメンバーと上手く協力してできたと思います。それだけでなく、自分の改善点や議論の進め方のポイントも学ぶことができました。また、他の学校の方々のスピーチから吸収することも多く、「次はもっとこうしたい！」と感じる部分がたくさんあって、ディベートに興味を湧いたので、今後に繋がるすごく有意義な経験だったと思います。（盛岡第一高校）

教員の声

- ・経験豊富なジャッジに細かくアドバイスをもらえるので、とても貴重な機会でした。
- ・大変刺激になりました。普段目立たない生徒にも発言の機会があり、彼らにとって良い動機付けになりました。
- ・生徒が苦心しながらも一生懸命に英語を使う姿を見ることができ、感激しました。県内の生徒同士での交流ができて、励みになったはずと信じております。